

【5】あらためて八ヶ岳山麓・・・新生・セラヴィリゾート泉郷の課題

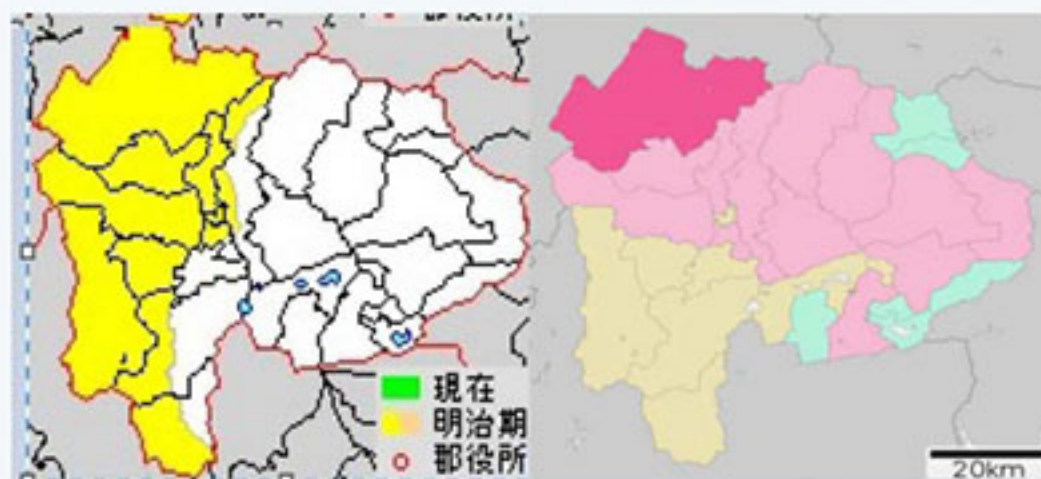
21: 基本のテーマは「八ヶ岳」

これまでのセラヴィリゾート泉郷の成り立ちや、現在の施設配置から見ると、「オアシスクラブ」のテーマのひとつは八ヶ岳ではなかろうか。

泉郷は、もともと大泉村に事業用地を求めスタートした。大泉村とは一体どういうところだったのだろうか。

旧高旧領取調帳によれば、幕末の甲斐国は 31.1 万石。甲斐は 4 郡に分かれ、巨摩 14.3 万石、都留 2.1 万石、八代 6.8 万石、山梨 7.9 万石である。

(注) 旧高旧領取調帳データベース <https://www.rekihaku.ac.jp/doc/gaiyou/kyuudaka.htm>



15 明治期の巨摩郡(左図) 現北杜市の範囲(右図)

出典 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%9D%9C%E5%B8%82>

ざっと甲斐の 45%が巨摩郡に依存する。巨摩は甲斐のなかでは豊かだった。明治維新以降、旧巨摩郡は北・中・南に分かれていたが、石高シェアはほぼ等しく各 1/3 である。そして、旧8町村が、平成大合併で現・北杜市を結成した。ちなみに石高は、ざっと 3 万石。巨摩郡の約 10%にあたる。

旧大泉村は、谷戸(やと)村甲府支配所 735 石と西井出(にしいで)村甲府支配所 655 石、その他両村に諏訪大神社領若干石からなり、 \times て 1395 石である。巨摩郡の 1%弱、甲斐国の 0.5%にも満たない。須玉町(21.5%)、高根村(19.0%)に比べれば大泉村は貧しい村だったのかもしれない。

(注) 北軽の応桑村に比べればはるかに豊かだ。

しかし、別荘地は貧しい村に成り立つ傾向がある。この近くでは、軽井沢や北軽井沢あるいは蓼科が該当しよう。八ヶ岳中央観光は、のちに泉郷と名前を変える。これは事業用地が、水に恵まれていた大泉村に所在したことに由来する。八ヶ岳を水源とする伏流水が湧きだす「泉」の地域にあった。八ヶ岳の西南山麓はことに水が豊富なので、縄文時代から生活していた跡があるという。

22:名古屋の避暑地としても…

ハヶ岳山麓に高原野菜(ほかに園芸・酪・林業等諸事業)が多いのは、一つは、整備された灌漑により湧水がくまなく供給されることによる。そして、亜寒帯気候の定義に「最寒月平均気温が -3°C 未満」「最暖月平均気温が 10°C 以上」「年平均降水量が乾燥限界以上」がある。冬の雪が降ったら根雪になるけれども、樹木が生育可能、夏には野菜も獲れる様な気候である。ハヶ岳山麓は、実に亜寒帯気候である。これにより、夏季のレタス栽培が可能になり、東名阪が市場に入る。コメが獲れなかっただけに工夫が実り、今は豊かな農業生産者が多い。

また、冷房の設備がない頃は、この亜寒帯地帯に涼しさを求めて都会から比較的所得の高い層が集まった。大都会から最初の1000Mは、世界のリゾート開発における立地選定の一つの定石である。

東京の場合、北に行けば日光・中禅寺湖、北西に向かえば軽井沢、西南に行けば箱根である。

特に関東大震災以降、東京は西のほうに向かって人口が増えていった。その先の最初の1000メートルは富士五湖周辺、そしてハヶ岳山麓だったのである。東海道に比べれば、甲州街道は小規模な道であった。時代が転じ、有料道路は開通したのも、東名自動車道(1969年)や名神自動車道(65年)に比べれば13-17年ほど遅く、最後まで残っていた勝沼IC-甲府昭和ICの開通が82年である。

ハヶ岳南麓には縄文時代の遺跡が広く分布し、平安後期には甲斐源氏が若神子(須玉町)を本拠に速見郷へ進出したとか、戦国期に武田が棒道(軍用道路)を設け、谷戸城から松本辺りをねらったとあるが、やはり、武田信玄が天下を狙うのが遅すぎ、肝心の後継者が哀れな末路を辿るにもかかわらず、徳川幕府は警戒を強め、また、幕府領が多い多摩から甲斐には、明治維新政府も投資を遅らせたのであろう。東海道はもとより、中山道にくらべても、甲州街道はなお暗いイメージがつきまっていた。

戦前、この方面の「最初の1000メートル」で、避暑地として栄えたのは富士五湖であり、さらに数十年を要しハヶ岳山麓が注目されたといえるだろう。中央自動車道の開通は「最初の1000メートル」の選択肢を増やした。そして、東京の多摩の人口が増加する。85年のプラザ合意以降、90年バブルのピーク以降数年に至るまで経済は、拡大の一途を辿った。清里をはじめとするハヶ岳山麓に注目が集まった。そのためハヶ岳の南側が北に比べて、圧倒的に明るくなった。泉郷はそうしたなかで成長した。

メルヘンチックな清里のペンション村は今や廃墟と化している。名古屋のイタリア村もこれに類するものである。未熟だった日本のリゾート開発が、まっとうなノウハウを得るために、避けることのできない通過儀礼のようなものかもしれない。しかしセラヴィリゾート泉郷は「奇跡の復活」を遂げ始めた。そこにはメルヘンチック以上のノウハウがあったからである。



16 東京・名古屋から見たハヶ岳の位置

23:ハヶ岳山麓を取り巻く

旧泉郷の施設に清里のホテルを加えると、以下のような略図が描ける。そして図のA B C は以下の通りである。

A: 清里高原ホテル(山梨県北杜市高根町清里 3545)標高約 1225M

B: ネオオリエンタルリゾートハヶ岳高原(山梨県北杜市大泉町谷戸 8741)標高約 1150M

C: ホテルアンビエント蓼科(長野県北佐久郡立科町大字芦田ハヶ野字女神湖 975)標高約 1550M

(注)Google Maps 標高表示(V3 API 版) 測定値の多少の誤差は許容いただきたい。

これら3つの施設を結ぶ道路は、ハヶ岳の南から西・北の山麓を通る。そして オアシスクラブの3つ施設とも明らかに標高 1,000 メートルを超えている。

気象庁のアメダスの観測記録が、野辺山(鉄道駅で最高地点)、大泉、軽井沢、蓼科の4カ所にある。ただし、施設の立地地点と、観測機器の設置地点では、標高に差があるためどのデータを採用するかは注意を要する。例えば、大泉の施設が 1,154M であるのに対し、観測地点の大泉は 867M である。同様に、施設の蓼科は 1550M に対し、観測地点の観測地点の立科は 715M である。

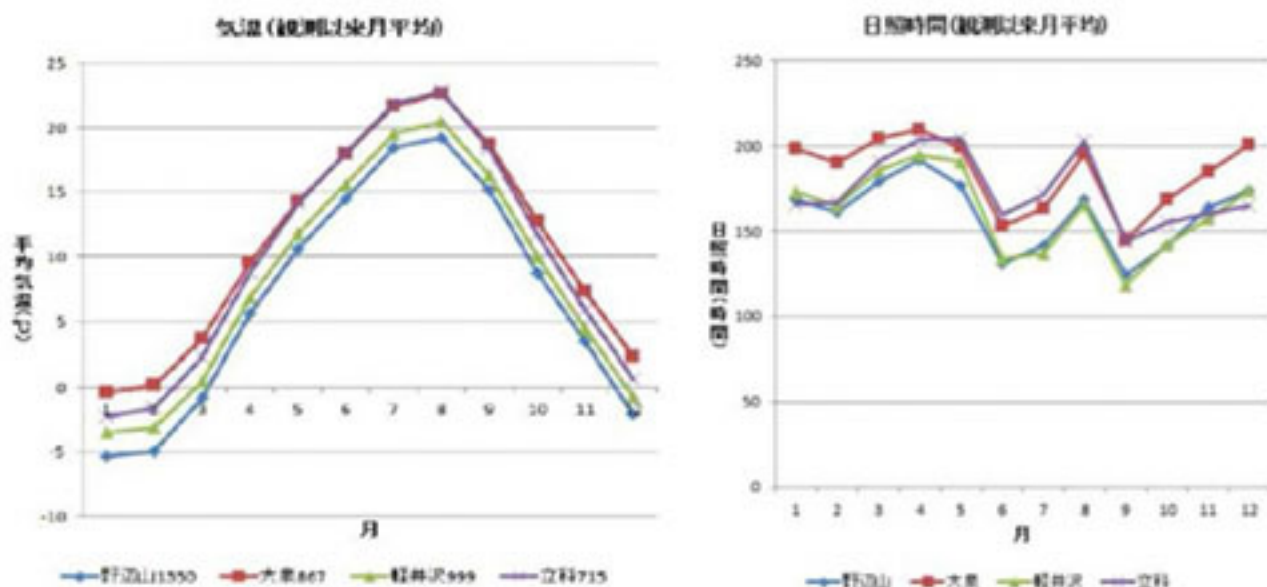
従って気温の方は、野辺山と大泉の間ぐらい、おそらく軽井沢に近い形になるのではなかろうか。軽井沢の気温はほぼ札幌と同じである。ただし気温は地形にも左右され、冷気がたまりにくい斜面温暖帯ならば、標高に比べて暖か

いかもしれないとか、放射冷却のときは逆転層ができるとのことで、標高の低い方がかえって冷えるという(Wiki)から、必ずしもすべて標高に比例するというわけではなさそうだ。

他方、日照時間については、標高には関係なく、場所の差や季節間で微妙な差がある。観測値によれば大泉の日照が長く、野辺山・軽井沢は短い。しかし、冬季(12-2月)は立科の日照が短くなり、4地点では大泉だけが長くなる。その差は月に 30 時間くらいになる感だ。大泉より南東方向にあるひまわり畑で有名な旧明野村は日本一の日照時間を誇るという(Wiki)。北軽のときにも触れたが、この辺(軽井沢以西南のハヶ岳周辺や軽井沢から北の浅間山麓)は雨が少なく日照時間が長いという。



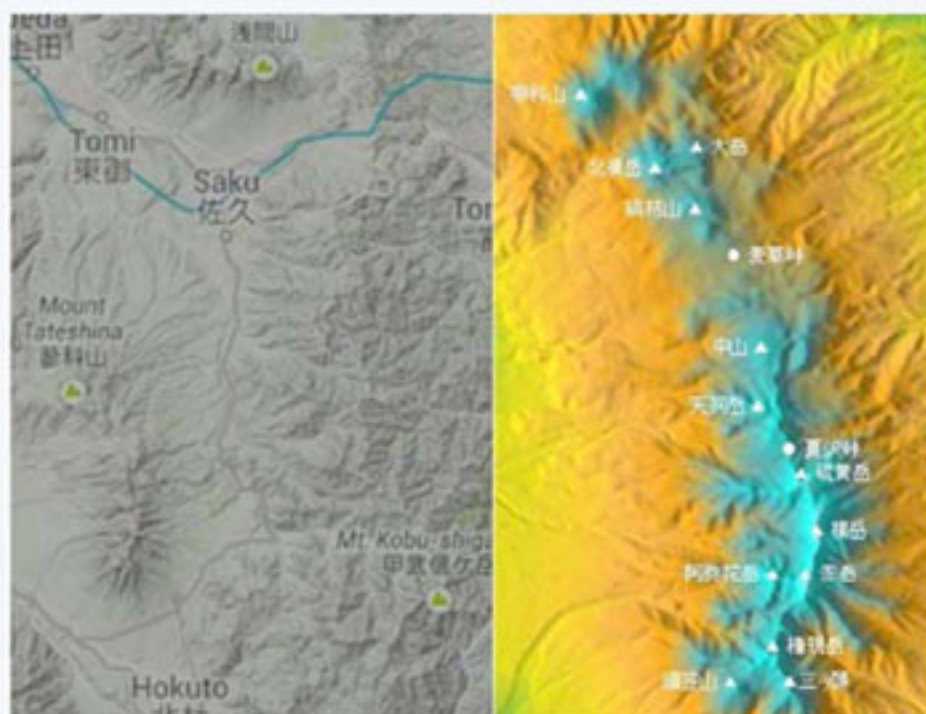
17 CRIのハヶ岳山麓3施設の位置



18 野辺山(鉄道駅で最高地点)、大泉、軽井沢、蓼科の微妙な気候の違い

24:八ヶ岳の「八」の意味

南北 30 km 余りの大火山群という八ヶ岳のいわれは、山々が多く連なるゆえの「八」、実際に峰が八個あるゆえともいう。最高峰は赤岳 (2,899 m)。ランドサットが撮影した画像のとおり 2500M 級の山岳が並ぶ。夏沢峠(夏沢鉱泉と本沢温泉の間)から南北で、北八ヶ岳と南八ヶ岳に分ける。北側がなだらか、南側が急峻という。かくして定義は多様だが、我々は最広義の定義を採用し、最北の蓼科山も含めて八ヶ岳と呼称しよう。



19 八ヶ岳概念図

有数の火山群をかかえるのだから、八ヶ岳山麓には温泉がたくさんあるという。しかし著名な温泉場は聞かない。信玄の隠し湯とか秘湯風でこれまた少々好事家向けである。

25: ハヶ岳山麓の「清里高原ホテル」

清里高原ホテルは、すでに示したように、富士屋ホテルの由来なので、パステルカラーのペンション村とは全く違った雰囲気がある。比較的規模が小さく、互いにラグジュアリーなホテルは、軽井沢の万平ホテルを見るように単独で維持するのが非常に難しい。

会員制であるが故に施設の運営が成り立つ、会員制だから何かなるという側面がある。別の言い方をすれば、こうしたホテルは会員制でないと、なかなか成立しないかもしれない。こうした仮説を裏付ける一つの事例になるのではないか。むしろ、建物が醸し出す雰囲気にふさわしい人間が必要である。支配人の加藤知子はそこを十分に心得ている。



20 支配人 加藤知子

ホームページやカタログの写真にもあるように、このホテルから富士山の眺望はなかなか素晴らしい。写真よりも実際の方が素晴らしい珍しい例である。

このホテルから北に60km 向かうと軽井沢がある。軽井沢なら浅間山である。浅間も悪くはないが、このホテルからの富士にはかなうまい。



21 支配人お奨めのデザート



22 空から見たハヶ岳と概念図

26: 清里高原ホテルからの富士山

この清里のホテルから見える富士山は、南東の方角になる。1225M から見る富士は、甲府市内の上空越しに見える。工業地帯の東海道から見ると、煙突や工場の建物や送電線に邪魔される。しかも、日が西に傾けば、季節によってはこのホテル自体が太陽を背にするので、真っ向から西日に反射する富士が見える。

しかもこの地域の冬の日照時間は、他地域に比べ格別に長い。

このホテルの構想者は、かなり計算して立地を選んだのであろう。閑散期こそ、何冊かの本を持って、富士山と付き合いながら、一週間くらいは連泊してみたいホテルの典型である。



22 西日の当たる富士山

27:ネオオリエンタルリゾートハケ岳高原の貸別荘

ここは、旧泉郷の発祥の地である。ここで注目したいのは、旧創業者の心血を注いだ貸し別荘の事業である。

リゾート開発では重要な発想だからだ。US やフランスの大規模スノーリゾートに行くとコンドミニウムホテルがある。1つのユニットが100万ドル以上する例もある。

所有者は、デベロッパが仕組むホテルプールに入り、自分が使わないときは、これを商品として供出する。2-3の各ベッドルームのなかにバスタイレが付いており、ベランダからスキーをはいたままゲレンデに出られる「スキーイン・スキーアウト」の商品もある。ダイニングもキッチンも実に広い。100万ドル(実際にはもっと高いものいくらもあるが)のコンドミニウムの所有者よりも、それを1週間借りる者の方がお金持ちというケ



23 現在の貸別荘事業 旧大泉村に所在

ースもいくらもある。

大泉の貸し別荘は、そこまで徹底していないが、とにかくキッチンが自由に使えるというのが重要である。旅に出たときぐらい何もしたくない、すべて上げ膳据え膳で過ごしたいというのも一つの方向である。一方、滞在という感覚で、いつもと違ったところに出掛けても、普段の延長上で食事を作り、ファミリーで楽しむというリゾートライフもできる。これはレギュラーホテルのスイートでも、まずできないことだ。みんなで料理を作って楽しむのと、一流の料理人の献立をみなさんと一緒に頂くのとは、どちらが上というのではなく、その機能が異なる点に着目する必要がある。なにも食事に限ったことではない。かなり高度なレベルの社交においても有効な手段となる。



24 ある利用者のアルバムから

28:天の川の降るようなお星さま・・・八ヶ岳高原・・・

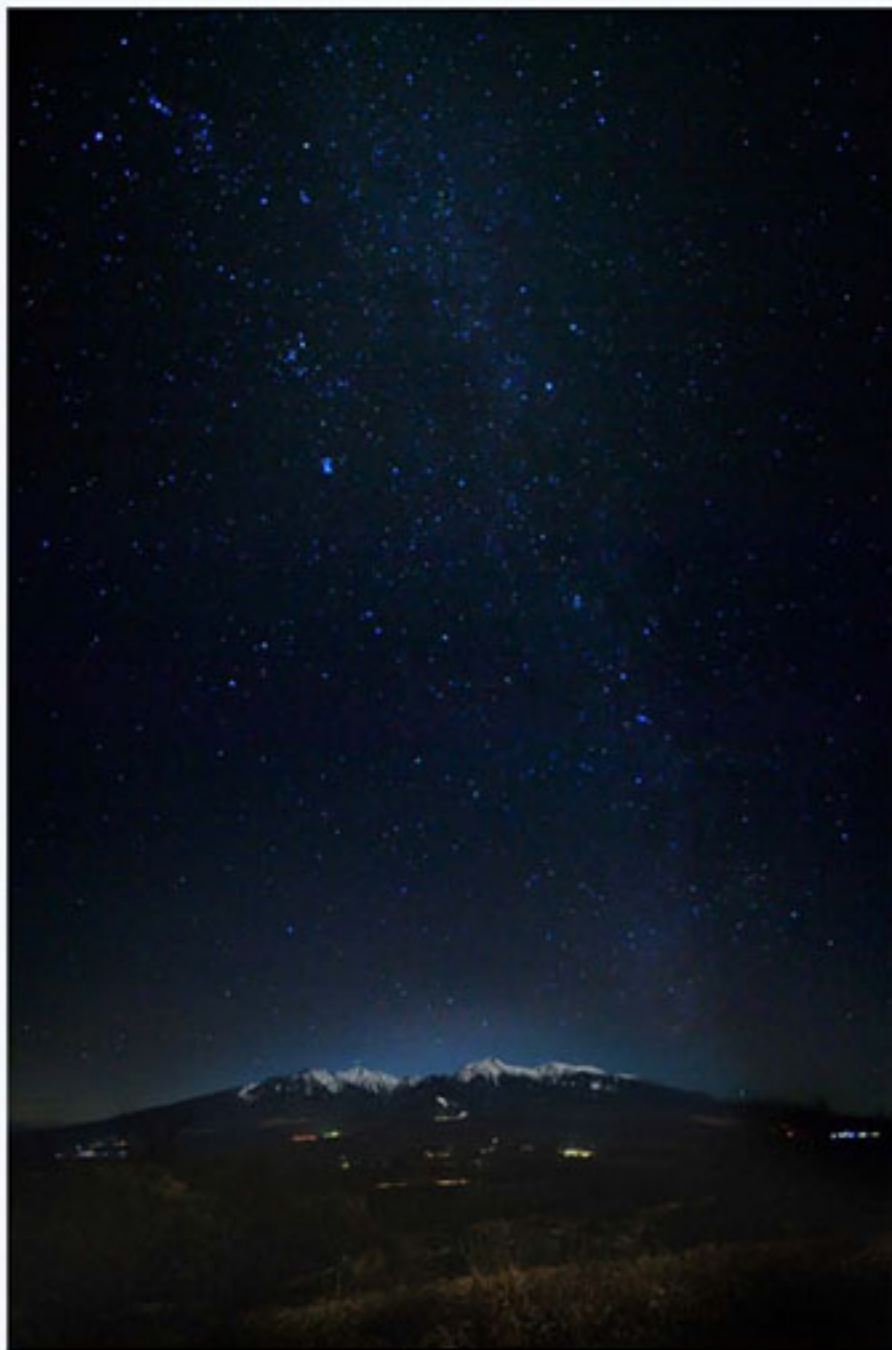
1年に2-3週間、普段の仕事空間から離れて全く違うところに滞在したり、あるいは、自分の好みの拠点を決めてしばしば同じところに訪れる。こうしたことは、人間の生命を永らえる意味で、結構重要なことなのかもしれない。この考え方は物見遊山の旅行とはいささか趣を異にする。自分が楽しいと思うことがあって、それを計画し実行するという努力が必要である。物見遊山の場合は対象が自分を楽しませてくれる。一方、滞在の場合は、自分で働きかけないと楽しみがない。

この辺がリゾートライフである。この大泉の泉郷の貸別荘は、いちいち別荘を買わなくても、そういうことが実行できる意味のある商品だと筆者は思う。

セラヴィリゾート泉郷の会員権やオアシスクラブも、ファミリーベースで、そのような意味が含まれているのではないか。

冬の八ヶ岳の情景や夏の天の川の降るようなお星さまについては、改めて説明するまでもない。

右の写真は11月だが、夏はもっと素晴らしい。ご想像に任せ、説明にかえることにしよう。



25・11月の天の川。実際はもっと素晴らしい。旧大泉村

29: ホテルアンビエント蓼科

茅野市との境に蓼科山がある。白樺湖はなぜ「立科町」ではなく茅野市なのか。このホテルとコテージは立科町にある。なぜ、「蓼科町」ではないのか。「蓼」が当用漢字にないとか、古くは「立科山」と表記されたからというが、蓼科のほうがカッコイイと思うがいかがだろうか。

蓼科湖(周囲約 1Km、面積 8Ha)、白樺湖(周囲約 3.8Km、面積約 36Ha)、女神湖(周囲 1.5Km、面積 12Ha)。すべて人造湖である。女神(めのかみ)は蓼科山の別称とのこと。「立科湖」と付けるべきだが、同音異義語でこんがらかる。今の白樺湖周辺は物見遊山であって、とてもリゾートとはいえない。白樺湖好みと女神湖好みでは派閥が異なる。しかし商売だけを考えたら、白樺湖の方が儲かってきたであろう。たぶん、立科町の権力者は白樺湖を自分の方に引き入れようと考えたのではなかろうか。

白樺湖は、もともと柏原と言う地名を持った湿地帯である。旧高旧領取調帳データベースに、信濃国諏訪郡柏原村高島藩領分 380 石とある。これが白樺湖の前身とするなら、こんな寒くて平地がなくて水も不安定なところで、どうやって 380 石も収穫するのか。江戸時代の日本人もまた勤勉だったと驚くほかはない。ちなみに現・立科町に含まれる地籍で、旧高を計算すると 5610 石。内 94%弱が小諸藩分である。筆頭は旧・芦田村 1987 石で 34%、茂田井村 1478 石で



26 冬の立科事業地①



26 冬の立科事業地②



27 立科事業地から見た蓼科山

実は、軽井沢ほど有名では無いけれども、蓼科高原は大正時代くらいから別荘が立ち始めた。戦後、昭和 30 年代の後半からトヨタの営業の神様といわれた神谷ファミリーによって開発が進められた。従って、名古屋ないし中京地区の客が多い。高速道路がない時代、中京地区から軽井沢までいくのはいささか疲れる。蓼科くらいが限界、立科まで行く気力はなかったかもしれない。その大衆版が白樺湖周辺であった。

26%となる。

同じ信州でも高島藩は諏訪郡、小諸藩は佐久郡にある。A・B・Cという3つの施設があるが、AとBは甲州で八ヶ岳の南側、Cは信州で八ヶ岳の北側に含まれる。佐久郡は中山道沿いなので、甲州街道沿いの諏訪郡よりもにぎやかなはずである。しかし立科町は北に向かって斜面が続き上田につながる。南西斜面を持つ茅野の蓼科に比べるとどうも暗い(筆者の主観で申し訳ないが)。



28 元総支配人六川孝幸

30: 佐久・立科と茅野・蓼科

郡は違うとはいえ立科町にしてみれば、地続きの茅野・蓼科のやっていることがまばゆく見えたであろう。66年に女神湖ができるにいたり、62年ピーナスライン開通もあって、その湖畔を開発しようとしたのは無理もないことだ。列島改造論で湧いた70年代前半から90年バブルまでは、開発した施設を維持したが、

バブル崩壊が進むにつれて施設の維持が困難となり、このホテルを含めわずかな事業所が生き残った。

白樺湖と違って、静寂さが保てる点は可とするも、なんでもそろっていそうな茅野・蓼科とどう差別化し訴求するのか。たとえば、このコテージがどう生きるのか。知恵の出どころである。

女神湖の本当の名前は「赤沼温水溜池」である。その設置の目的は、蓼科山中を源泉とする塩沢堰（立科町の農業用水路）の余水を貯え、水不足に備えることにある。塩沢堰は江戸時代に六川長三郎が開削し1646（正保3）年に完成した。ちなみにホテルアンビエント蓼科元六川（ろくがわ）総支配人はその子孫筋である（前頁写真）。



28 蓼科の貸別荘事業 立科町

これで開削前わずか50石が1672（寛文12）年に662石になったという（Wiki）。農林水産省など選ぶ日本の疏水百選に入る（2006年）。六川長三郎とその子孫には、いろいろ面白い話もあるのだが今回は省略する。セラヴィリゾート泉郷の蓼科が本格的なリゾートクラブの施設になるかどうかは、まさにこれから、塩沢堰のような粘りと工夫が必要で、まだ第一幕が終わり、二幕目が開いたくらいである。

料理長の中山忍は地元出身。東京でイタリア料理を修業。カジュアルで女神湖のふさわしい献立を工夫している。



29 料理長中山忍



30 蓼科牛を使った前菜と主菜

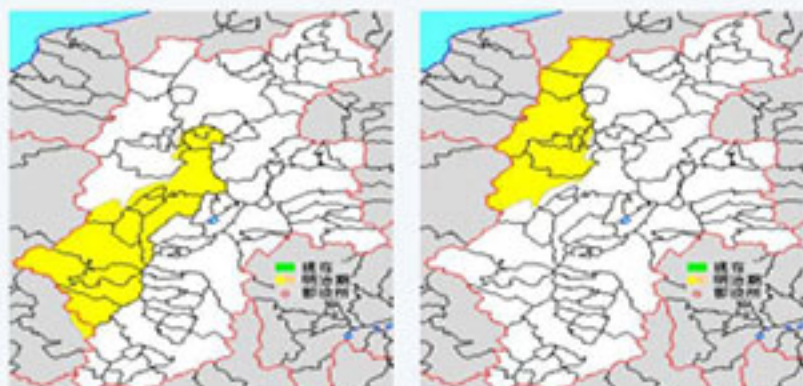
【6】穂高連峰をリゾートに

31: 塩嶺越え・安房越え

クルマなら、自動車道があるから、さして意識もせずに、容易に塩嶺トンネルを走り抜けることができる。八ヶ岳山麓から塩嶺峠を超えて、松本の先の安曇野に向かうなら、峠からのくんだり坂でこの盆地を眺望できるかもしれない。

さしたることはないが、この辺に来ていつも思うのは、武田信玄ともあろう者が、なんだってこんな盆地を攻めたのだろう。駿河・遠江の方がよほどおいしいはずだが。彼は死ぬ間際になって、やっと東海道側に出て行った。

あるホームページではこう描く。以下、晴信とは後の信玄、信虎はその父君、文中の「下の地図」は略(興味に応じ URL から本文を参照)。



31(注)左は筑摩郡、右は安曇郡 いずれも明治初期

http://www.adult-movie-japan.com/battle/shinshu_takeda.html

「1541年、甲斐国において武田家当主、信虎が家臣団によって追放され嫡男の晴信が当主となった。この政変の1年後、武田は再度、信濃へ侵攻する…信虎は佐久、小県(下の地図、内山城、志賀城方面)へ侵攻し成果をあげたが、信虎失脚後、佐久、小県の国人達は武田から離れる…信濃攻略は振り出し…が、晴信が当主となり諏訪を攻撃する…この路線変更はなぜなのか?」…「家督を相続した晴信

の諏訪侵攻であるが、一番は武田にとって、すぐに大きな利益となるからということが理由である」…。

前掲の旧高旧領取調帳では、甲斐はざっと31万石。うち半分近くが巨摩。しからば諏訪郡は4.4万石、筑摩郡は8.4万石だが、南は尾張領で松本周辺だと3.5万石、安曇郡は6.4万石。塩嶺峠から遠望できる範囲ではざっと10万石、甲斐の1/3ということになる。むろん江戸末期の数字だから信玄の頃はもっと少ない。

たいていの小説家は信玄を褒め称えるけれども、この程度であるとすれば、そういう意味では織田信長は傑出して偉かったということになる。

セラヴィリゾート泉郷の2つの施設がある。

D: ホテルアンビエント安曇野(安曇野市穂高牧 2230)標高約 1020M

E: 高山わんわんパラダイスホテル(岐阜県高山市丹生川町久手 470)標高約 1330M

位置関係は、東京圏よりも中京圏のほうが近くなる。加えて、諏訪湖の水は東海道に向かって南に流れるが、塩嶺を超えると、いつのまにか川の流れが北に向う。国土交通省の河川の管轄も、中部地方整備局から北陸整備局に代わる。

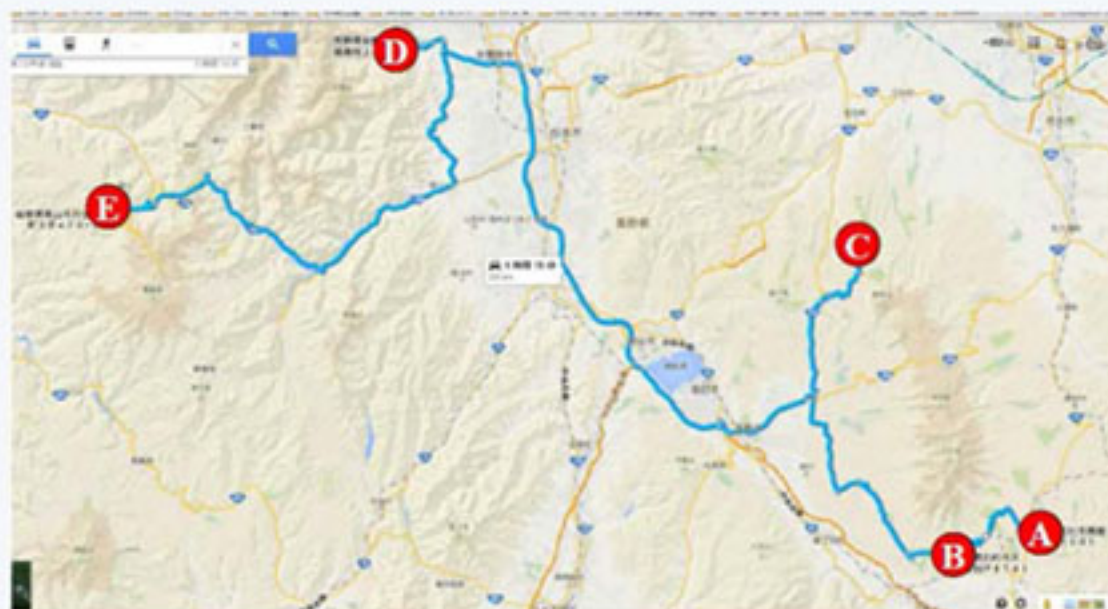


27 東京および名古屋から見た安曇野と高山の位置関係

32: 塩嶺越え・安房越え・・・久保川と吉留・・・

あためてA～Eを並べてみると、A～CとD～Eは別のブロックにある。Dは旧泉郷の久保川、Eは旧セラヴィの吉留が決めた立地である。甲州人の久保川が安曇野に、中京の吉留が丹生川に、なぜ出てきたのか。たまたまそういう開発物件があったからには違いないが、多数の選択肢の中から選んだことは確かである。

ことに久保川の場合は、バブル崩壊期の選択であり、この投資が結果として過大投資の一つになり追い込まれていく。久保川も信玄に似た発想があったのだろうか。



28 ハヶ岳および安曇野と高山の位置関係



29 手前の丘陵と向こう側の山岳との間が安曇野平 旧松本藩の収入源

セラヴィリゾート泉郷ならば、DとEはセットとなる。DとEは穂高連峰を挟んで、その対極にある。上高地や大正池はそのなかにある。D～Eの移動は、かつては安房峠を越えるので容易ではなかった。

いまは、安房トンネルができて路線バス(松本・高山間)さえ走る。登山しようとは思ってもよらぬが、深雪のころの閑散としたこの辺の山岳情景は、ハヶ岳の降るような星空とまた別の、野趣豊かな味わいがあると感じている。

オアシスクラブの会員なら、ここに数泊して、穂高連峰の啓示を得て、新たな活力をモノにされるかもしれない。



30 安曇野と高山は穂高山麓

33: 安曇野と高山・丹生川

ホテルアンビエント安曇野は穂高からみれば東側の常念岳の麓の山あいにある。オアシスクラブ 5 施設のなかでは標高がもっとも低い、それでも 1020M はある。東側に安曇野の山野田畑がある。だいたい 600-M という。おおむね東京スカイツリーの高さだ。この辺りは、最初は海、それから森林、そして開墾され農地になったのであろう。森林で残った部分が別荘開発の用地になった。主には旧・穂高町である。南隣の旧・堀金村は、旧陸軍松本連隊の練兵場があり、そのために開発されたので森林が少ない。それで別荘開発の対象にはならなかったようだ。

旧石高にもあらわれるように、開墾の効果があつてか、このあたりでは「米どころ」である。松本藩主は徳川幕府のあいだに 11 回変わる。6-10 万石クラスの大名家だが、その財政のかなりの部分を安曇野のコメがそれを支えたことになる。

穂高連峰は日本海方面に伸び、飛騨山脈になる。麓や山あいにはスキー場がある。日本ではおおむね、リフト会社＝スキー場経営者なので、リフト会社の数だけスキー場がある。よって、一つひとつは規模が小さい。若いころはスキー場の駐車場でクルマに寝ていたかもしれないオアシスクラブの会員も、安曇野からスキー場通いはそう難儀はしないであろう。かつてよりは幅員が拡張されるなど道路が整備され、また、除雪も確実に行われる。スケジュールさえ組めれば、滞在のなかで、余裕あるスキー・スノーボードが楽しめる。

この穂高連峰の槍ヶ岳から穂高岳に至る登山は、2 泊の縦走コースで、日本の登山愛好家なら一



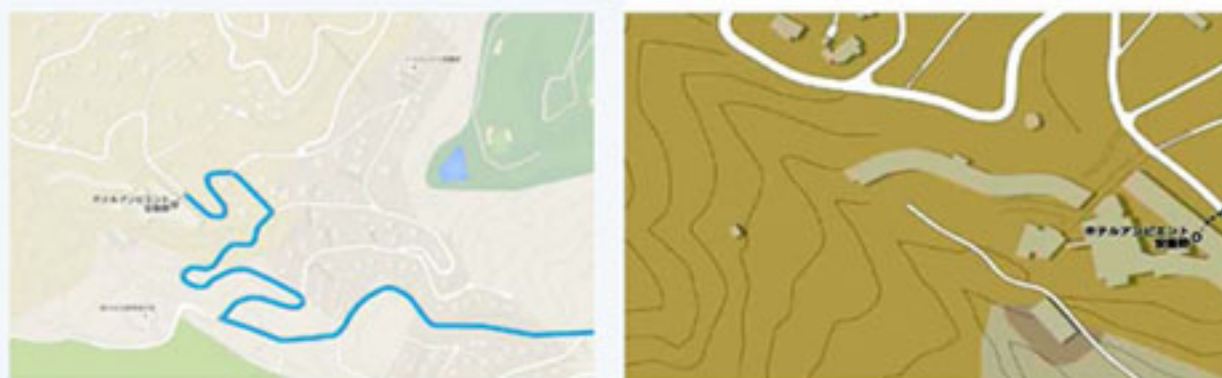
31 穂高と大正池、常念・蝶ヶ岳と安曇野の位置関係

度は試みる。多少スリルはあるものの、素晴らしく眺めがよいらしい。そのほぼ東側に常念岳や蝶ヶ岳があり、さらにその東側の山麓にホテルアンビエント安曇野がある。左図で位置関係をお確かめいただきたい。青色の道路は、安曇野インターからのアクセス道路である。標高は 1040M。安曇野インター550M から 500M ほど登る。

さて、この安曇野のホテルは、下図(右側)にあるように、この山麓の等高線に沿って建設した。これは計画時点で意識的に考えたものである。ホテルの建物が、緩い S 字のように、波打っている。

こういう「普請道楽」は、当然のことながら、投資金額を高める原因になる。めぐりめぐって、会社としての旧・泉郷のいのちを短くしたとのだ・・・と評する向きもあるのだが、各位にはどう映るであろうか。

下図左側の図の、右上の緑色は穂高カントリークラブ、その北に、あずみ野カントリークラブ(ともにゴルフ場・前者は伝統的な林間コース・後者的方がトリッキーで標高が高くボールが飛ぶ山岳コース)がある。また、左下の緑色は国営アルプスあづみの公園(堀金地区)である。おとながゴルフをしている間、こどもはこの公園で遊ぶ。体験者のこども(小学生)に聞くと、かなり遊びがいのある公園のようだ。



32 等高線に沿ったホテルの平面形状

34: ホテルアンビエント安曇野

この国営公園には「あずみの学校」があって、木製のコースター・カスターネット・キーホルダーづくりをする教室がある。また、そば打ち おにぎりづくりも体験できる。これが楽しいらしい。それから、じゃぶじゃぶ池というのがあって、こどもが文字通り、じゃぶじゃぶ、水遊び興じるのである。地元のボランティアがいて、玄関の湧水に泳ぐ魚(たぶん鱒)の説明をする。これはおとな向きだ。

こうした立地ゆえに、地形から見て、ホテルからは穂高連峰は見えない。穂高連峰から見た前山の常念岳が、ホテルと一直線になって、その西側に見えることになる。

下図・左は 11 月 19 日の朝 6 時ごろの日の出の常念岳、右は朝 9 時ごろの常念岳である。名残の紅葉は終り、文字通り、新雪の常念である。



33 ホテルから日の出時点と朝 9 時ごろの常念岳

ちなみに、「新建築 93 年-DATABASE.1- - SAWADA LAB」では、下表のような記載がある。

www.sawadalab.se.shibaura-it.ac.jp/kyouzai/.../limited/.../skc93_h11.htm

建物名称	泉郷プラザホテル安曇野	伊豆高原泉郷コンドミニアムホテル
所在地	長野県南安曇郡穂高町大字牧 2230	静岡県伊東市富戸字先原 1317~ 2131
主要用途	ホテル	ホテル
設計	小宮山昭+ユニテ設計・計画	小宮山昭+ユニテ設計・計画
施工	東急建設	東急・新日鐵共同企業体
敷地面積	54003(M2-Rank06)	13056(M2-Rank05)
建築面積	5253(M2-Rank04)	2112(M2-Rank03)
延べ面積	20394(M2-Rank05)	6071(M2-Rank04)
地上階数	4	7
地下階数	1	
塔屋階数	1	1
構造	RC 造 一部 SRC 造 S 造	RC 造 S 造
竣工年月	1992.11	1992.12
掲載書籍	新建 9302	新建 9302
備考		レストラン棟(2FL 1BF)

35: 痛恨の久保川弘雄・

旧・泉郷は当時の社長の久保川弘雄の裁量で、1992年に2つのホテルを竣工させている。後追いでみると、2-3年くらいだが、いかにもタイミングが遅かった。徐々に、資金繰りがきつくなってきた時期なのだ。「失われた20年」で、全国の多くの名門と称する旅館が倒産していく。

後年、1998年ごろ、東北地域のいくつかの旅館の実態調査をしたことがある。売り上げのピークは1994年と回答した事業所が多かったように記憶している。そのかなで、ある古老が、「今回のような不況は経験したことがない、底なし沼だ」と述懐していた。10年目にして、「失われた20年」を予感していたのかもしれない。循環不況ではなく、構造不況なのだ。

リゾートは装置型のサービス事業であるから、誕生の経過から容易には抜け出せない。借金を背負って生まれたリゾートは、借金を背負って成長するしかない。唯一、そのしがらみから抜け出す手法が、スポンサーの登場である。ことに、会社更生法による債務の整理は、いわば外科手術による、会社のいのちの「再生」である。債権者が、債権という自前の財産を投げうって、患者の手術費用を負担し、キレの良い特効薬を寄贈するようなものだ。釈然としない向きもないとはいえないが、一法人の私財とはいえ、使える財を打ち壊すのは、公益に反するという理屈には勝てない。

久保川の霊よ、安らかなれと祈るや切・・・。

...

かくして大外科手術と特効薬により債務から逃れたとしても、低金利の時代、損益分岐点売上高は変化しない。売り上げの確保はあってはじめて「奇跡の復活」が定着する。つまり、会員の利用が肝心なのだ。

そうなると、料飲は大きなウエイトを占める。コース料理にせよ、アラカルトにせよ、人気的重要である。

右図の右下は馬刺しである。「肉のスズキヤ」という馬肉の卸・小売りの店がある。「天然ジビエと珍しいお肉通販／肉のスズキヤ」という。飯田市南信濃和田1348。長野県といっても最南端。安曇野からは156キロ南だが、2時間半はかかる。飯田のインターで降りて、豊橋に通じる秋葉街道をいき、街道沿いに店がある。

そのホームページによれば、「古代朝廷の直轄牧場(官ノ牧)の実に半分は長野県にあり・・・」「そのため、馬肉を食す文化が育ち」、信州は「九州熊本と並ぶ馬刺しの消費地」とのことで、「特に、南信州・伊那谷では、食用肉と言えば「馬肉」を指していたくらい、当時から日常的に馬肉を食べてきた」とある。

そのスズキヤ若旦那の見解では、「信州では馬肉をさくら肉とも呼び」「『お肉の色が桜色』という説もある」が、「『桜が咲く早春の頃おいしいお肉』だからではないか」と言う。

出典 http://www.jingisu.com/shop/contents?contents_id=219770

この辺りは、「中世以来の荘園江儀遠山荘」があり、「北条時政が地頭を務めた」という(Wiki)。江戸末期は信濃国伊那郡和田村。飯島代官支配所は信濃の天領(22万石弱)のひとつを支配し、和田村は495石あった。これが隣村と合併して遠山村になり、南品信濃村になり、飯田市と合併して現在に至る。安曇野の料理に馬刺しが登場する由来の一端である。



34 安曇野のホテル料理 右下は馬刺し

36: 安曇野から安房越え高山・丹生川

高山から安房峠を越えるとき、進行左側の山あいが旧・丹生川(にゅうかわ)村である。名称は高山わんわんパラダイスホテルだが、丹生川村の山中にあり、標高は約 1330M である。高山の街うちはいくらでもホテルはあるが、こういう立地は貴重である。

先ごろ物故された著名な俳優氏は高山の西側の某所に別荘をもっていた。彼はどういうわけかリゾート開発(というか田園・森林振興)に興味があった。令夫人が某広告会社の紹介で、建設関係の営業マンを伴い、銀座の裏長屋にある筆者らの「リゾート研究会」の事務所を訪問されたことがある。もう 30 年近く前のことである。その案件が丹生川村であった。

ざっとお話を伺っただけで「難しいな」と思ったが、ともかく、現地の森林組合の参事さんのところに出向き、開発用地の概要(仮に実施するとしたら、地上げはどうか、いかなる許認可が必要か、立木の概況や如何)をお聴きした。その上で銀座に戻り令夫人に「固定資産の流動化」の話をした。広告や建築関係者はやらせたがるけれども、いったん曲がり出したら、いくら著名な俳優さんでも、いくら稼いでも足りませんよとお伝えしたら、主人は別荘にいるからこの話をして欲しいというので、ふたたび高山まで出かけた。バブル期の下手な不動産業者よりよほど理解力があるのか、筆者の話は納得していただいた。平湯からタンクローリーで運ばせたから泊まっていけというので、「湯泊」を頂いた。

それにしてもなぜわざわざ湯を運ばせるのかと聞くと、「人気者はつらい」ということであった。

高冷地の宿泊施設の経営はなかなかの難事である。何らかのモデルを構築し、仮想的に全額借入で単期・通期の黒字の出る時期を予測し、多少確率的な考察を加えながらキャッシュフローを計算して、シミュレーションするのだが、そう簡単には思うような結果は出ない。会員制だから安定的経営が可能になる。

そういう意味で、丹生川村、しかも平湯ICから7km程度下ったところ、かつ、ほおのき平の至近にこういうロッジがあるなら、「お犬様」のみならず、「ひと様」もお好みに応じて、個性的な活用を検討したい施設である。

安曇野から高山に行くには飛騨山脈を越えなければならない。イギリス人鉱山技師のW.ゴーランドがヨーロッパのアルプスを引用して「日本アルプス」と名付け、また、イギリス人宣教師W.ウェストンが見つけた「上高地」がある。夏の日本の都会はよほど暑かったのであろう。ちなみに六甲も軽井沢もイギリス人に由来がある。

余事ながら、松本藩主は江戸時代に 11 回交代があった。諸方から移動してきたので味覚が変わるが、高山は一貫して江戸から郡代が赴任した(初期には辞令だけで赴任はしなかったケースもあるが...)ので、料理のノウハウが蓄積されたという。



35 ほおのき平を走る愛犬 出典:

<http://konatsu-bei.cocolog-nifty.com/osaka/2012/11/post-6ec3.html>

37:大臣賞料理長の料理を・・・安曇野から高山・丹生川

松本のある食通はこのアルプス越えをして「洲さき」に行く。石高や食材なら、まだしも松本の方が豊かなのだが、高山の料理は「雑には稀な」存在である。



36 加藤卓志の飛驒懐石

わけでも「洲さき(すさき)」は江戸時代から220年続く高山の料理屋で「宗和流本膳」をうたう、高山の市内にある。当協会のホームページでも別途紹介しているので、ご関心の向きはご参照いただきたい。

.....

先に紹介した公営社団法人日本料理研究会の第28回全国日本料理コンクール(2015年3月11日・サンケイプラザ4Fホール)において、郷土料理部門で加藤卓志の作品「白川郷 春の訪れ(下図)」が農林水産大臣賞を獲得した。加藤は高山

わんわんホテルの料理長である。上図は彼の手になる「飛驒懐石(上図)」である。

加藤は、「高山という土地柄、遠方からお越しのお客さまが多数お見えになる」「料理人として、旅の疲れを癒やす料理の提供を第一と考え」「出来合いの食材を使うのではなく、出来る限り手作りにこだわり、料理でおもてなしをしていきたい」と語る。「今回頂いた賞を一つのステップとして、日々精進していきたい」と抱負を抱く。

加藤の料理は標高ざっと1310 M。先の洲さきは580M。アルプスならぬ飛驒山脈の山奥で、大臣表彰料理長の料理をいただくのも、また一興である。



37 大臣賞受賞作品「白川郷 春の訪れ」